

人でつくるまちへ

10月10日、安来商工会議所創立70周年記念式典に出席しました。

安来市の経済的特徴や強みを生かし、経済環境を維持・発展させるために大切なことについて、パネルディスカッションが行われました。商工会議所・金融機関・行政のそれぞれが人材を育成し、取り組む事が大切だと話し合いました。



▲パネリストの島根県商工會議所連合会田部長右衛門会頭（写真右）と。



このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック」で公開しています。



▲車内で入場券と名簿を照合し、投票用紙を交付します。車内奥では立会人が見守っています。

10月16日、安来市議会議員一般選挙の移動期日前投票が行われました。赤屋地区2カ所に加え、市内高等学校へもマルチタスク車両が出向き、学校で初めての期日前投票を行いました。

安来高等学校で21人、情報科学高等学校で15人が投票。「学校で投票できるのも貴重な体験。投票所での投票と何も変わりなくスムーズだった」「元々投票には行くつもりだったけど、友だちに誘われて期日前にきてみた」との声が聞かれ、若い世代の選挙への意識の高さが見られました。

まちの話題や
出来事を
紹介しま
す

たうんとぴっくす

TOWN TOPICS

今月の1枚



今年で5回目を迎えた「やすぎランニングフェスティバル」。親子ペアの部（1.5km）からハーフの部（21km）までの6種目に計474人がエントリーし、秋の中海干拓地を走り抜けました。

10月26日：穂日島町（中海ふれあい公園周辺）

政治への関心高く

10月17日から20日まで、アルテピアで「第21回安来市総合文化祭」の展示部門を開催しました。華道・工芸立体・書道・水墨画・俳画・パッチワーク・自由応募の部門で、市内から集まった約300点の作品が展示されました。

自由応募部門で実行委員を務める内田洋子さんは、「木彫りの熊に鮮やかな色を塗った作品など、アイデアあふれる面白い作品を展出していただいた。皆さんの個性を發揮して自由に創作を楽しんでほしい」と話しました。



▲内田洋子さん作「丘の上の農園」。粘土で作られた精巧なミニチュア作品です。

芸術の秋を楽しんで





▲巨人になって歩く動き。「これって、ダンス？」
「もちろん、ダンスです！」

10月25日、アルテピアで「踊りたい子集まれ！Dance！ダンス！だんす!!」と題したダンスワークショップが開催されました。

ダンサーで振付師の康本雅子さんを講師に迎え、ダンス経験がある人もない人も誰でも参加。自分で動きを生み出すコンテンポラリーダンスに挑戦しました。

参加した子どもたちは「走ってからポーズを決めるダンス」「ティッシュを落とさないダンス」など、自分の気に入ったダンスを見つけて楽しみました。

11月4日、市内の小中学生が利用できる学校電子図書館「プロテリアルe文庫」の運用が始まりました。専用のウェブサイトにログインすることで、約400冊の電子書籍を借りて読むことができます。

この学校電子図書館は、株式会社プロテリアル安来工場からの寄付を受けて導入したものです。10月29日には、寄付受領式と実演を行いました。

このサービスの導入により、子どもたちが本に触れる機会が増え、読書習慣の定着につながることが期待されます。



▲プロテリアル安来工場の渡辺洋工場長（写真右）より、寄付金の目録を受け取りました。

みんなでダンス！

10月26日、島根県安来建設業協会主催のイベント「けんせつキッズフェスタ」が開催されました。参加者は、ショベルカーの操縦体験やミキサー車を使ったガラポン抽選会など、実際の建設機械を使ったアクティビティを体験。建設業について楽しく学びました。

イベントを企画した同協会青年部会長の足立隼さんは、「子どもたちに建設業への興味を持つもらうとともに、地域の方々に理解を深めてもらうきっかけになればうれしい」と話しました。



▲ショベルカーの操縦体験。アームの先に吊るしたフックでターゲットを狙います。



▲炉に砂鉄を投入。今年は計124kgの砂鉄を使用し、30.4kgの鉢ができあがりました。

はじめてのショベルカー

古代たら復元操業

10月2日から4日にかけて、和鋼博物館で開催された「第20回古代たら復元操業」。奈良時代ごろのサイズの炉を再現し、砂鉄と木炭から鉄の塊である鉢を作ります。一般の参加者も募集し、県内外から32人が参加しました。

参加した立命館大学文学部3年生の十倉千和さんは、「今回、粘土をこねて炉を作るところからたら操業を体験した。手間と時間のかかる作業で、たら製鉄には多くの労働力や資源が必要であったことを実感した」と振り返りました。

学校電子図書館スタート